

# 満月の夕

本調子

1/3

中	か
工	ぜ
五	が
○	
工	ふ
中	く
上	み
中	な
上	と
乙	の
四	ほ
五	
中	う
上	か
四	ら
○	や

四	け
上	あ
中	
○	と
中	を
工	つつ
尺	む
中	よ
上	う
四	に
工	お
○	ど
中	す
上	か
四	ぜ
四	か
○	な

四	し
上	く
中	
○	て
中	す
工	べ
五	て
七	を
五	わ
工	
中	ら
上	う
四	か
乙	わ
○	く

四	ふ
上	ゆ
中	の
○	
中	ゆ
工	う
尺	べ
中	と
上	き
四	を
工	
○	こ
中	え
工	こ
五	つ
○	き
	よ
	う

工	せ
中	ん
四	
○	か
中	
上	ら
四	い
中	く
上	せ
乙	
四	ん
五	り
中	の
上	ガ
四	レ
○	キ
	の

中	ま
工	ち
五	に
○	た
工	つ
中	こ
上	の
中	む
上	合
乙	ね
四	の
五	ふ
中	り
上	こ
四	は
○	鳴

四	ら
上	
中	す
○	い
中	ま
工	を
尺	
中	き
上	ぎ
四	む
工	
○	た
中	め
上	ヤ
四	サ
○	ホ

四	い
上	
中	
○	ヤ
中	
工	う
五	た
七	が
五	き
工	
中	こ
上	え
中	る
上	ね
四	む
乙	ら
○	ず
	に
	あ



# 満月の夕

本調子

3/3

一、風がふく港の方から焼け跡を包むよ  
うにおどす風悲しくて全てを笑う乾  
く冬の夕べ時を超え国境線からいく  
千里のガレキの街に立つこの胸のふ  
りこはは鳴らすいまを刻むため

二、飼い主をなくした柴が同朋とじゃれ  
ながら道をゆく解き放たれすべてを  
笑う乾く冬の夕べ

三、ヤサホーヤ歌が聞こえる眠らずに  
朝まで踊るヤサホーヤ 焚き火を囲  
む

四、星が降る満月が笑う焼けあとを包む  
ようにおどす風解き放たれすべてを  
笑う乾く冬の夕べ

五、ヤサホーヤ歌が聞こえる眠らずに  
朝まで踊るヤサホーヤ 焚き火を囲  
む